

令和4年度 第5回恵那市社会教育委員会議事録

開催日時：令和5年1月27日（金）

午前10時00分～11時40分

開催場所：恵那市役所災害対策室A・B

1. 開会あいさつ
2. 教育長あいさつ
3. 社会教育委員長あいさつ
4. 諮問（地域学校協働活動の推進について）
5. 議題
 - （1）第4回社会教育委員会会議録の承認について
 - （2）諮問に対する会議の進め方について
 - ・スケジュール（案）
 - ・答申内容の骨子（案）
6. その他
7. 次回日程

日時：令和5年3月24日（金）午後3時～
場所：恵那市役所本庁舎4階 第2委員会室
8. 閉会あいさつ

・出席者の数：社会教育委員14人中10人、事務局4人（以下のとおり）

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員長	林 達夫	恵那市三学のまち推進委員会	出席
2	副委員長	磯部 彰	恵那市図書館協議会	出席
3	委員	山内 正一	学識経験者	出席
4	委員	山田 恵市	恵那市文化振興会	出席
5	委員	相原 正文	恵那市青少年育成市民会議	出席
6	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
7	委員	柘植 俊夫	恵那市民生委員児童委員協議会	欠席
8	委員	小林 英文	恵那市壮健クラブ連合会	出席
9	委員	百松 義朗	NPO まちづくり団体	出席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	出席

11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
12	委員	伊藤 幸正	恵那ライオンズクラブ	出席
13	委員	阪上 美代子	恵那市スポーツ推進委員連絡協議会	出席
14	委員	土屋 真由美	校長会代表	出席

事務局

1	教育長	岡田 庄二	恵那市教育委員会	出席
2	課長	柄澤 史枝	生涯学習課	出席
3	課長補佐兼係長	伊東 将昭	〃	出席
4	主査	今井 ちえこ	〃	欠席
5	社会教育指導員	遠藤 滋	〃	出席
6	社会教育指導員	小坂 忠昭	〃	欠席
7	社会教育指導員	和田 克子	〃	欠席
8	社会教育指導員	太田 礼子	〃	欠席

1. 開会

(事務局) 皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。それでは、定刻となりましたので、これより令和4年度第5回恵那市社会教育委員会を開催させていただきます。それでは、資料の確認をさせていただきます。会議次第が表紙ホッチキス止め資料を配布しています。他、会報やたよりなどの発行物を配布しています。こちらについては、その他のところで紹介いたします。

なお、本日も欠席の柘植俊夫委員は恵那市民生委員児童委員協議会より選出されておりますが、昨年12月に恵那市民生委員・児童委員は改選がありました。柘植様におかれましては留任され、引き続き社会教育委員としてお務めいただくこととなりましたのでご報告させていただきます。

それでは次第に沿って進行させていただきます。はじめに岡田教育長より皆様にあいさつ申し上げます。教育長よろしくお願ひします。

2. 教育長あいさつ

(教育長) 雪が降り寒くなってきました。我が家も給湯器が凍り驚いたところで。寒かったり暖かかったりですが、健康にご留意されながらお過ごしいただきたいと思ひます。今、学校は、1年の活動のふりかえりをして、来年度に向けて計画を立てているところです。その中で、地域学校協働活動とコミュニティスクールという言葉はどの学校からも出てきております。以前に増して「地域との関り」「地域と一緒に」子どもたちを育てていきたいという願ひが強くなり込められております。これからもいろいろな場面でご協力いただくことが多くなると思ひますが、ぜひよろしくお願ひいたします。また、本日は教育委員会からひとつ諮問させていただきます。長きにわ

たりご検討いただくこととなりますが、よろしく申し上げます。

(事務局) ありがとうございます。続きまして社会教育委員長からごあいさついただきます。

3. 社会教育委員長あいさつ

(委員長) ここ1週間ほど冷え込んでおります。水道を凍らせないように気を付けているところです。こども園では風邪が流行っているようです。インフルエンザと普通の風邪とコロナと同時に発生していますが、身体を冷やさないようにしながら抵抗力をつけていきたいところです。5月にコロナの分類が5類に変わるとのことで、個人的にはマスクなしになるのはいいなと思いますが、気づかないうちに他者へうつさないように行動していきたいです。

今日は教育委員会の諮問が出るということですので、今まで勉強してきたことを活かしながらいいものができるといいと思います。よろしく申し上げます。

(事務局) ありがとうございます。

4. 諮問（地域学校協働活動の推進について）

(事務局) 先ほど、教育長と林委員長よりお話しいただきましたが、恵那市社会教育委員会では昨年度、今年度と、地域学校協働活動の推進をテーマに、調査研究を行っていただいております。昨年度は主に講演会や研修会への参加を通じて、地域学校協働活動についての見識を深めていただきました。今年度については、調査研究として、地域学校協働活動推進員との合同会議を通じて、現状把握や課題、改善策について整理を行ってきました。

このような成果を踏まえて、今後、社会教育委員会として、地域学校協働活動の推進に向けた方策のまとめに移る段階に入ったと捉えています。そこで今回、恵那市教育委員会より恵那市社会教育委員会へ諮問をさせていただきます。岡田教育長から林委員長へ諮問書をお渡ししますので、教育長は林委員長の前までお進みください。

【両者対面し、教育長から林委員長へ諮問書を渡す。】

(教育長) 恵那市社会教育委員長 林達夫様 恵那市における地域学校協働活動の推進について（諮問） 恵那市における地域学校協働活動の推進について、貴委員会の意見を求めます。1. 諮問事項 恵那市における地域学校協働活動の推進について、2. 諮問理由 恵那市は令和3年度から、すべての地域において地域学校協働活動の取り組みを開始したところです。以降、各地域の特色に応じた活動が展開されてきました。一方で、組織のあり方や推進員の役割など課題も見られます。今後、一層の推進を図るため、恵那市地域学校協働活動運営委員会を兼ね、地域学校協働活動の調査研究を行っている貴委員会に対し意見を求めます。令和5年1月27日恵那市教育委員会。よろしく申し上げます。

(委員長) 承りました。これから1年かけて社会教育委員全体でお応えできるよう頑

張ります。よろしく申し上げます。

(事務局) これより議題に移らせていただきますが、教育長は別の公務のため退室させていただきます。**【教育長退室】**

それでは議題に移ります。この先は、林委員長に議事進行をお任せします。林委員長よろしく申し上げます。

5. 議題

(1) 第4回社会教育委員会及び臨時会会議録の承認について

(委員長) 事前に配布されていますので、誤りや気になる箇所がありましたら、会議終了後に事務局へ提出してください。

(2) 諮問に対する会議の進め方について

(委員長) 諮問に対する会議の進め方について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料4ページ、諮問書の写しです。前提として社会教育委員会は、社会教育法の中に職務が記載されています。その中に、「教育委員会からの諮問に応じ、意見を述べる。」という職務があります。今回、教育委員会から諮問がありましたので、社会教育委員会において、地域学校協働活動の推進をどう取り組んでいくか、これを答申書という形で教育委員会へ答申する手続きとなります。そのスケジュール案をご説明させていただきます。

資料5ページをご覧ください。全体会では意見をまとめるにむかため、分科会にグループ分けさせていただき、意見を出し合っていたきたいと思います。意見集約は、本年度第6回と来年度第1回の社会教育委員会を予定しています。**【スケジュール案を資料に沿って説明】**

(委員長) このような進め方でよろしいでしょうか。特に、素案は事務局と数名の委員さんに集まっていたいただき、作成していきたいと思います。事務局からお声がかかりましたら、素案作りにご参加をお願いします。今まで2年間の地域からの声も聞きながら、私たちが研修してきたことと、地域の実態を合わせながら、よりよい恵那市の進め方ができると思います。来年1月には答申書を完成させて3月に教育長に答申書をお渡しするスケジュールで進めたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

(事務局) 資料6ページをご覧ください。今、スケジュールの確認をしていただきました。次回、骨子に沿ってご意見をいただくことにしていきたいと思います。答申書の骨子の案ということで、項目を挙げております。このような答申書の構成で、これらに対してひとつひとつ皆様からご意見をいただく形になります。まず、答申書の骨子の案を説明させていただきます。

【答申書の骨子案を説明】

前回までに「課題の整理」で出てきた「中学生ボランティアはどう参加するか」「広報等を活用して発信しているが、地域学校協働活動の実態が地域へ浸透しない」などは、「活動の成果と課題」の項目に含まれると思います。答申書の骨子案を作らせてい

いただきましたが、本日皆様からご意見いただきながら修正したいので、よろしく願います。

(委員長) ありがとうございます。前提ということで、「地域学校協働活動のあり方」ですが、これまでの学校と地域の協力体制を基本に進めていくということは外せないと思います。新しいことをやるのではなく、今までやってきたことは地域の宝物ですので、大切にしながらやっていくのが基本だと思います。それから、学校職員、特に学校長や教頭が変わっても、「これは誰に頼むといい」などを引き継いで、継続して進められることを大切にしていけることが前提です。地域と学校がともに充実・発展して、継続してやっていけるということを大事にしていく。学校も地域も子どもたちを宝物として育てていくことで、将来的に地元を大事に思い、地元に残ってくれるといいなと思います。こればかりではありませんが、そういう前提も含めてご意見いただいて、整理されるといいなと思います。

(委員) 基本的には、諮問を受ける立場なので、このように進めていくのですが、骨子案のとおりひとつひとつ意見を出していくと、固くなってしまい、地域によっては実際と違ってくると思います。

先般大井町の記事が新聞に大きく出ていましたが、人によっては「非常に斬新だ」と思い、人によっては「ようやく追いついてきたな」と思われます。中山道大井宿は、30年くらい前から語りべさんがいて、3、4年生はグループに分かれて語りべさんについて宿場内を回っていました。ホット岩村では、中学生が観光客を相手にボランティアを始めました。長島小や大井小は遠足に電車を使い、帰りは歩くなどしてきました。「歴史に学ぶ」ということは大事だと思います。歴史の中で、文化や環境、人材として生き残った者が多い地域があり、少なかったり見えにくかったりする地域があります。内容は大井宿がこれまで受け継いできたもの、目標は発信方法で「自分たちが学ぶと同時に人を呼ぶ」ということでした。20～25年前にやったのは、大井宿を学校と繋ぐこと。今の東中の校長が岐阜市の加納小にいた時に、学校同士を繋ぎました。それが引き継がれていることは素晴らしく、目標・内容・方法の3つが揃うと、今回の大井町の記事のようにアピール度は増していきます。委員長も話されたように、代々引き継がれたものを大事に取り組みすることは大切だと思いました。

(委員長) 地域の特性に合わせてやっていかないといけない、ということですね。何でもかんでも一律にはならない。「こうしなければいけない」ではなく、「地域によってはこんな方法もある」ということを認め、「地域に適した」ということを前提に考えていくことが大事だと思います。地域学校協働本部を新しく作る地域、これまでの組織に乗せていく地域、それも地域の特性なので、認めていけたらと思います。推進員についても、基本に肉付けをするように、地域のやり方に合わせていけたらと思います。その他いかがでしょうか。

(委員) 私は大井町の青少年の研修委員会とも重なりますが、地域のおじさんとして地域に溶け込んでいける立場で、地域学校協働本部立ち上げにも関わらせていただき

ました。田口委員が関わるしめ飾りでは、「誘ってみると、子どもたちの活動に協力したい年配の方はいる」ということです。私もしめ飾りづくりに参加させていただきました。これからは、私も伝統文化を伝授する立場になっていくのですが、夏に青田刈りをして半年干して、12月にしめ縄にするということを初めて知りました。ホームセンターでお金を出せば買える時代ですが、伝えていくことも大事だと思います。

三郷町の青少年では、小さな門松づくりを親子で作って持ち帰らせることで、日本の歴史や文化に触れさせる活動をしているようです。活動している人たちには当たり前でも、地域の人たちは知らないことが多いのと、先ほどの大井町の新聞記事の話で思いました。私自身、知りませんでした。学校での活動は伝統的になっていても、地域の人たちは一部でしかなく、大井小学校で五平餅づくりを教えてください方方もいますが、そういう方にも地域学校協働本部に入ってもらえたらいいなと思います。

田口委員、大井町の文化伝承などの活動をされているので、少しお話しただけませんか。

(委員) 地域学校協働本部をつくり、推進員さんは別にいらっしゃいます。諸事情で推進員さんの交代がありました。会議もない状態で私もどうしたらいいのかなと思っています。前任の方が決めていたことに、新しいものを追加している状況で、うまく回っていない感じもします。いろいろ活動されていることに、うまくサポートしていけたらと思っています。大井町としてどうしていきたいのか示されておらず、どう動いていいかわからないところです。ただ、ポッチャは引き続き活動していきたいです。

(委員長) 組織がはっきりしていないし、推進員さんもどういふことをやったらいいかわからないのでしょうか。

(委員) 推進員さんとしては、いろいろな人を巻き込みたいと思っているようです。

(委員長) 不明確なことが多いので、どう進めたらいいかはっきりしていくといいですね。

(委員) 前回いただいた地域学校協働本部の中間まとめで「大井町はこういうことをやる」と知りました。ポッチャと紙芝居の活動はしていますが、推進員さんとのやり取りはありません。

(委員長) 問題点はいろいろ出てきますね。

(委員) 恵那市壮健クラブは、昨年度厚生労働大臣賞をいただき、天皇皇后両陛下様から「皆さんのこれまでの経験と知恵を若い世代に伝えつつ、老人クラブが高齢者の社会参加や明るい地域づくりに重要な役割を果たしていくことを期待しております。」と、励ましのお言葉をいただきました。働くことに必死になりすぎて、私たちの世代から下の世代に教えていなかったのが、地域の歴史を知りません。地域の歴史に詳しい仲間がおりましたので、親子で地域の山を登りながら語り伝えていく企画をしました。また、地域の祭りで使う笛を、子どもと竹を切りに行くところから作って、練習

して、祭りで披露するというのもしています。そういうことをやっていけたらと思いましたが。地域で歴史文化を知っている高齢者がおりますので、ぜひ、地域学校協働活動のメンバーに入れていただきたいと思います。私も壮健クラブの役員会では、「学校や地域から依頼があれば、協力してほしい。」と伝えておきますので、よろしくお願いいたします。

（委員長）私の地域の壮健クラブの活動は奉仕作業ばかりになってしまっています。もっと、子どもたちに関われるような楽しみを作っていきたいです。

（委員）子どもたちと芋ほりをする地域もあります。

（委員長）いいですね。来年度は、笠置の地域学校協働本部へ壮健クラブの会長にも入っていただきたく、連絡を取っているとことです。地域のことを知っている人や地域で活動している団体の代表、大井で言えば、中山道の勉強会をされている方など、どんな人をメンバーに入れて学校と関わっていくといいのか、検討していきたいです。

（委員）武並は地域の方々が昔から協力的で、世界に一本だけの自分の道笛活動も、作るところから演奏、文化発表会やお祭りでの披露が本当に地域の方のおかげで続けられ、感謝しています。恵那市は地域学校協働活動に早くから取り組んでいただき、地域で輝く子、学校・保護者・地域で子どもを育てるところを以前から願っていたので、ありがたいと思います。

昨年度・今年度と力を入れたのは、『東濃社会教育だより』に武並町青少年育成町民会議の活動紹介を掲載していただきましたが、3年目になる「地域みんなでラジオ体操」です。今年度子どもたちがチラシを作り、自分たちで配ってお願いして参加を募りました。塾長さんや地域学校協働活動の皆さんのおかげで、とても広がったと思います。見守りボランティア、畑ボランティア、昔あそびを作ってくれるボランティアさん以外にも、学習ボランティアということで低学年の算数の計算丸付けや九九を聞いてもらったり、家庭科で初めて使うミシンのサポートをしてもらったり、担任ひとりでは大変なので本当に助かっています。小さな学校では職員数も少ない為、学校の目的である子どもたちが楽しく学ぶ、学力・技能を身につけるといふ点に対して地域の皆さんの協力をいただきありがたいと思っています。学校としてやっていただくだけではいけないと思うので、子どもたちに地域で輝いてもらうよう、文化まつりに参加して一緒に野菜を販売しました。文化発表会では小学生が司会進行、中学生のブラス演奏など、コロナでできなくなっていた地域の活動に学校が参加する形を今年は何とかできそうです。子どもが地域に発信することに繋がるといいなと思います。中学生ボランティアについてですが、防災の日に小学生が中心となり避難所設営を行いました。中学生にも募集するとたくさんの参加をいただきました。お祭りの手伝いもしてくれ、中学生との連携もありがたいと思います。地域への周知は、地域の広報誌のみでなく、学校のHPや学校だよりで学校から発信することも大事だと思います。

私の中でまだ整理ができていない部分なのですが、学校運営協議会（コミュニティ

スクール)は学校が主になっていますが、地域学校協働活動との兼ね合いについて研修会等色々な場で聞きますが、なかなかすっきりしません。武並は学校運営協議会の会長と地域学校協働活動の推進委員長を同じ人にやっていただきました。それが正解かわかりませんが、大変ありがたかったです。学校の窓口は教頭になりますが、対応しきれないときに、推進委員長さんがコーディネーター役をしていただき助かっています。

(委員長)学校の在り方を説明いただきありがとうございます。学校は校長先生次第でどうにでもなる。校長先生がどういう姿勢で動いているか、地域とどう関わろうとしているかがよくわかりました。その連携が上手なところはうまくいくと思いました。

学校運営協議会と地域学校協働活動それぞれが何をやる場所なのか、整理していかないといけないと思います。恵那市としては分けていきたい。学校運営協議会は校長が出されたことに対して意見を出し合ってより良くしていくもの、具体的なことは地域学校協働活動の推進委員会へ繋いで「地域は学校へ協力してほしい」と地域に伝えていくものです。

(委員)皆さんの意見を聞いてわからなくなってきたのですが、私は推進員も兼ねています。推進員の仕事内容がまだわかりきっていません。推進員の集まりで各地域の推進員さんの話を聞くと、地域によって様々で、推進員が引っ張っている地域があったり、引っ張るといふより調整役の地域があったり。内容も、本部や推進員が主体の活動と、活動団体主体の活動の割合も地域によって違います。私の関わる地域は、本部は情報収集を行います。あとは、自治区の会議に校長先生も参加され、小中学校の学校運営協議会の問題や助けてほしいことを直接お願いされる場面が多いです。その場で私は一言二言付け加える程度です。自治区と学校が直接やり取りできるので、推進員は何をしたらいいのかと思うのですが、すでにそれぞれで活動できている地域活動が、条件が揃わなくなってきた、そのままに置いていたら立ち消えてしまいそうなところをフォローしていけたらいいのかなと考えています。まだ、具体的な本部としての活動は、地域でまちまちだなと感じます。けれど、まちまちでもいいのかなとも思います。

(委員長)要はどこで取りまとめしていくか、「うちの地域では、それは〇〇委員会が行っている」など、それぞれの仕組みを整理していくことがひとつなのかもしれません。

(委員)そうですね、予算をとっての活動は地域のNPOで行っていることも多いので、推進員が出ていってあれこれは言えない状況です。

(委員長)これまでやってきたことは任せて、ただ、何をやっているか整理したいですね。骨子の中に「何をやるか」を入れなければいけません。いつどこで誰が何をしているかを記録しておけば、推進員が変わっても引き継いでいけるので、話を伺う中で、整理して記録することは大事だと思いました。

(事務局) 大井町の活動が目指すことは、「子どもたちが地域に愛着を持つ」「地域に誇りを持ち、英語で外国の人に伝え、さらに誇りを持つ」「大人になって地域文化を守り伝える」そんな次世代の育成です。これは地域だけでできることではなく、学校の関りも必要だということを前提において、推進員さんが新しいことをどんどん引っ張って行く形より、今まで地域でやってきている活動を調整する役割でいいと思います。動くのは地域の人たち、活動団体のみなさんがいいように思います。

(委員長) 子どものために、子どもの将来のために、地域の活性・充実のために、学校と地域が一緒になって、地元で愛着を持つ子どもを育てていくことですね。

(委員) 推進員には入っていませんが、何かひとつするにしても、極端に言うと賛成派と反対派がありますね。中山道の英語の看板にしても、「今はすごいね」と感心する人もいれば、「そんなことしても外国人は来ないだろう、自己満足だ」と言う人もいます。地域学校協働活動も、「あの人は好きでやっているからそれでいい」とか「あの人がいるなら参加したくない」とか、敵視して話が進んでいかないこともあります。賛成・反対の間で円満に話ができる人が大事だなと思います。

(委員長) 反対する人は声も大きいし、賛成の人は黙って参加してくれることが多いです。子どものため、地域の発展のために、活動に賛同してくれる人を増やしたいですね。

(委員) 中野方は、学校に協力する人はとても多く、秋祭りに招待してもらおうとたくさんの方が参加されます。

(委員長) 中野方は昔からの伝統が息づいていますね。

(委員) 子どもに伝承していくと言いますが、少子化真っただ中なので、子どもを増やさないといけないと話にならないと、意見交換する機会がありました。少子化問題を考えるのが先だと話しました。

(委員長) 地元に残ってもらえる親を育てていかないといけないですね。

(委員) 結婚しない人も多いですね。世話好きな地域のおばさんもいなくなりました。

(委員) 企業誘致して、若い人に来てもらえるようにしないとイケませんね。今、中津川の工業団地で働く人も多く、中津川で家を構える世帯も多いと聞きます。

(委員) 今、坂本が増えていきますね。

(委員) 笠置も移住者向けに住宅がありますよね。

(委員長) 4軒あって、移住定住に力を入れています。若い世帯も来ています。

(委員) 皆さんが推進員として地域に関わっている話を聞いて、勉強になります。社会教育委員としては、どうやって提案していくのか知らなければなりません。校長先生のお話で学校の様子はわかるし、学校運営協議会と地域学校協働活動の区別ができていないこともありつつ、地域一体になって進んでいるので、このまま進めていけそうだなと思いました。自分に何ができるかと思った時に、地域の活動があった時にはまず参加することだと思います。社会教育委員としては、どうしていくといいのか悩

みます。

(委員長) 難しいですね。地域の委員会へは社会教育委員はなかなか呼んでもらえません。地域の活動の様子がわかるので、壮健クラブもそうですが、社会教育委員会も推進本部のメンバーに入れてもらえるといいですね。

(委員) 何をやっても地域の特性や温度差がありますが、子どもを軸として地域の大人が関わりながら地域を育てることが大事だと思います。小さなことも細く長く、賛否両論ある中でも維持していきたいです。推進員の役割は、あるものを後押ししていくことで、社会教育委員の関わり方を見つけていきたいです。

(委員) 諮問についての感想は、1つ目は「恵那市に根付いていける」ということ、2つ目は「学校の支援」にリンクしながらそれぞれの活動を価値付けしなから整理していくこと、3つ目は「地域の歴史文化を引き継いでいく」ことを大事にしていけるといいなと思いました。

(副委員長) 9月14日地域学校協働推進委員と社会教育委員の合同研修会がありましたが、推進員さんのお話から熱気を感じ、素晴らしい活動をしていると思いました。推進員さんが素晴らしいで終わらせず、次の推進員さんへ変わった時に、同じ状態、同じ熱気でその活動を進めていけるか、現実には進めていかなければならないが、推進員さんだけでなく、委員会全体のものとして進めていけるといいなと感じました。また、発表の中で地域活動のこともありましたが、地域の声、地域に根付いた事柄が伝わってこないといいますか、例えば凧作りをするにしても、「何のために」「どうなってほしいからやるのか」が見えないことがありました。私たちも図書館ボランティアで子どもたちの凧作りをサポートすることがありますが、昔のことを教えることもありますが、「子どもとボランティアが話せる場を作りたい」という意味でやっています。大人の気持ちが活動を通して伝わってくるといいなと思いました。

私自身地域住民として何もしていません。声をかけてもらえたらやりたい気持ちがありますが、地域住民に何をしたらいいか指示してほしいと思います。誰が支持してくれるかわからず、何か活動していても自ら飛び込んでいく勇気がありません。例えば、チラシで「こんなイベントをするので、時間があれば寄ってください」とお誘いがあれば、出かけて行きやすいです。これまでそういうことがないので、みんなが寄りやすい仕組みを作ってもらえたらうれしいです。

(委員長) 継続している委員会はメンバーが一緒なので、新たな人に関わってもらえるよう進めるのは大切だと思いました。さて、時間も迫ってきましたが、答申については、このように進めていくということでしょうか。今のように意見を言っていたらと、問題も見えてきますし、全体会でなく、次回のグループ討議のメンバーは事務局にお任せしたいと思います。よろしいでしょうか。

(委員) 賛成

6. その他

(事務局) 今日配布したものについてご案内します。「人権同和講演会」「伊藤和樹さんの講演会・ライブペイント」へぜひご来場ください。「東濃社会教育だより」は県事務局が作成し、武並の活動をご紹介いただきました。「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」は急なご案内で申し訳ありません。既にご案内しています2月10日開催の「岐阜県地域学校協働活動フォーラム」もよろしくお願ひします。

各委員の皆さまから情報提供等ありましたらお願ひします。(特になし)

最後に、社会教育委員会は任期2年となります。任期満了の団体様へは次期の選出依頼をかけさせていただきます。諮問への答申が年度をまたぎますので、再任・留任いただけますと幸いです。

7. 次回日程

日時：令和5年3月24日(金)午後3時～

場所：恵那市役所本庁舎4階 第2委員会室

(事務局) 年度末の忙しい時期ですが、よろしくお願ひします。

8. 閉会あいさつ

(副委員長) 教育長より諮問を受けましたが、恵那市を背負って立つような大きな問題であり、これから大変だなと思います。この委員会できちんと考えて、形を整えていくべきかと思ひますので、ご協力をお願ひします。私は図書館協議会代表として参加しています。図書館には、図書館協議会、子ども読書活動推進委員会が5年ごとの方針を立て、各こども園、学校を通して読書活動推進を行うわけですが、令和5年度が改定のタイミングとなります。令和4年に準備をし方針を立てておりますが、図書館長より「社会教育委員の皆さまにもご意見いただけたら」という意向があります。次回、何らかの形でご意見いただけたらと思ひます。長時間にわたり、ありがとうございました。